

子どもの遊びは、学び

子どもは、遊びの中から考えたり、工夫したり、試したり、調べたり、挑戦したり…。たくさんの事を学習します。認定こども園の教育保育要領の中にもはっきりと、明記されています。園は、子どもが自由に遊びを選択できるように、環境を整え自分から遊びや活動に取り組む土台を培うよう説いています。当園は、様々な環境の工夫行っています。新年度スタートから1ヶ月。縦割りクラスの中で、そんな子ども達のたくさんの学びを見ることが出来ます。今回は、私が直面した子ども達の学びをご紹介します。



まさにこれは、『アクティブラーニング』そのもの。

『主体的で対話的で深い学び』です。

- ★主体的＝子どもが中心
- ★対話的＝周囲や友達との関わりながら…
- ★深い学び＝知っている事と新しい知識を結び付けて学ぶこと

「園長来て！この虫と同じ図鑑で見つけたよ！」と虫かごに入れた虫と、図鑑の虫の絵を指さしながら熱く訴えるぶどう組のY君。「へえー、見つけれられたのすごいね！」と言いながら虫を覗くと、形は似ているけど若干違っています。するとMさんが「こっちの図鑑で、探してあげる…」とページをめくり始め、J君は再度虫を確認。写真には映っていませんが、もう1人のY君も別な図鑑を取り出して加わってきました。結局、この4人共に、虫かごの虫と図鑑の絵が違うことに気づき、納得がいかない様子…。「色は、黒だから同じ…」「手と足が違うね」などと語っていました。

私は、黙ってこれを見ていました。可愛らしい友達とのやりとが、微笑ましく、笑い出しそうになる自分を押さえながら、自分達だけで答えを出そうとしている姿に「子どもってすごいな！」と愛おしさが倍増するひと時でした。このやりとりは、30分位続きました。すごい集中力です。

30分間に、答えは出ませんでした。しかし「調べて見よう」とするこの姿が、尊いのです。例え答えは、出なくてもその過程を楽しんだり、経験することが、「好奇心」や「共感力」などを育み、**非認知能力の形成に大きく関わっていきます**。いちご2組の時からお兄ちゃんやお姉ちゃんの子のしている事をよく見ていたのでしょう。こんな素敵な取り組みが、伝承されることは、縦割りクラス(異年齢混合)ならではないと思います。



「これ読んで！」とぶどう組のR君。お姉ちゃんのKさんに甘えています。まだ、文字を読めないKさんは、絵を見ながら自分なりの解釈で、読み聞かせをしていました。2冊目は「きんぎょ」という図鑑。「おおむたこども園にもいますね…」とオリジナルを入れて、それは可愛らしい2人でしたよ。

ここでの驚きは、このKさんの語彙力です。言葉の表現が豊富。想像力も有るのでしょう。「あちらの山から、こちらの山へ飛んできます」など。実際はそんなストーリーではないのですが、絵をみて言葉を繋いでいます。このような遊びの繰り返しが、非認知能力を育てています。非認知能力は、知識や理解などのIQと言われる認知能力を育てる土台になると言われています。